

# 記念館新聞

福崎町立  
柳田國男・松岡家記念館  
〒679-2204  
神崎郡福崎町西田原  
1038の12  
電話：0790-22-1000

## 松岡映丘画稿展

### 映丘が描く武者絵

4月20日(土)から5月31日(金)にかけての期間に、平成25年度松岡映丘企画展「映丘が描く武者絵」を開催します。

映丘は武者絵から画業をスタートされたと言われるように、多くの武者絵を描いています。

『記念館新聞』第55号で紹介したように人力車の背後に描かれた武者絵を鑑賞するために、映丘は辻川の「ます屋」という宿屋に、兄の國男と静雄とともに毎日通っていたと『故郷七十年』に記されています。

このようにして武者絵への観察力を養った映丘が6歳のときに描いたのが、「源頼義」です。鮮やかな彩色の甲冑が描かれています。



「源頼義」

この後も、映丘の甲冑への愛好の念は成長するごとに深まっています。そして、実際に甲冑を身にまとうことで、甲冑の細部を確認し、イメージをつくり上げていきました。

映丘は甲冑を着用した歴史人物を描いています。

今回の企画展では、映丘の武者絵に描かれている人物とともに、身にまとうている甲冑がどのようなものなのかをご覧いただければと思います。ぜひ、お越しください。

### 名作著書紹介

## 故郷七十年を讀む

『故郷七十年』で柳田國男は「末弟松岡映丘」と題して、次のように記しています。

映丘は一番初めに橋本雅邦(はしもとがほう)に師事します。これは、兄の井上通泰の紹介によるものです。なぜなら、橋本雅邦の妻が眼を悪くしており、その治療を通泰がしていたことから親しい間柄であったからでした。

しかし、映丘は橋本雅邦の所を出て、山名貫義(やまなつらよし)のもとへ入門します。けれども、山名貫義が間もなく亡くなってしまいます。

こうした経緯を経て、映丘は、小堀鞆音(こぼりとも)につくことになりました。國男は「輝夫は迷わず



柳田國男・松岡家記念館

### ☆☆入館案内☆☆

- ☆☆開館時間
- 9時～16時30分 (入館は16時まで)
- ☆☆休館日
- 月曜、祝日の翌日
- 12月28日～1月4日
- ☆☆入館料
- 無料

## 三ツ山大祭

姫路の播磨国総社では、3月31日から4月7日まで「三ツ山大祭」が行われています。

『記念館新聞』第57号でもお伝えしましたように、三つの山が築かれるのが特長となっています。



建設中の五色山と小袖山

今回の三ツ山大祭では全長18メートルに及ぶ山(二色山・五色山・小袖山)が建てられました。

周囲に高い建物があるため、その全貌を見ることが難しいですが、ぜひ、20年に一度だけ姿を現す山を間近で見上げてみてください。

## 館日記

今月号より、平成25年度の始まりとなります。

柳田國男・松岡家記念館では、本紙で毎月の出来事をお伝えしておりますが、年に一度館報も発行しています。それは、『うぶすな』です。

「うぶすな」とは、生まれた土地(故郷)を示す言葉です。

柳田國男と井上通泰が幼いころ過ごした場所を思い、詠んだ句も「うぶすな」の一節から始まっています。

平成25年3月29日に「うぶすな」第2号を発刊しました。一年の活動を振り返るとともに、来年度への予告もしています。

皆様の「うぶすな」となれるような館を目指して、今年度も努めて参りますので、よろしくお願いたします。

